

呉通信



月刊 No.437

2026年2月20日号

KURE BUSINESS NETWORK NEWS

発行：(一社)広島県中小企業家同友会 呉支部
呉市中通 4-4-7 笹兵衛ビル 101
TEL0823-23-9711 FAX0823-23-9141
<https://www.hiroshima.doyu.jp>
編集責任者：広報委員長 白井 健人



2026年1月24日(土) 呉支部新年互礼会 2026より

新年につどい、夢と希望を語り合い、交流を深めよう

令和7年度 呉支部方針 《スローガン》

Human First! 新時代へ挑戦～人を生かす経営の総合実践で、企業づくり・未来づくり

🔗 呉支部会員数 **422名** (2026年1月28日現在)
取材先募集中! ご希望の方は広報委員か事務局まで。

《 TOPICS 》

新年互礼会の報告	2
地区会の報告	3
部会の報告	4
オールクレ商談会	4
幹部社員研修の報告	5
広報委員会勉強会のご案内	6

呉支部 新年互礼会を盛大に開催！ 103名が参加し、新年の門出を祝う

■開催日 1月24日(土)
■会場 呉阪急ホテル
■出席者 103名(うち来賓11名)

(一社)広島県中小企業家同友会・呉支部は、1月24日、「新年互礼会」を呉阪急ホテルにて開催しました。当日は多くの会員および来賓が一堂に会し、新たな一年の幕開けを祝うとともに、地域の未来を語り合い、強い結束を確認する熱気あふれる会となりました。

司会進行のもと、冒頭では呉港高等学校ブラスバンド部による力強くも爽やかな演奏が披露され、会場は一気に華やき、新年への期待感が高まりました。

開会挨拶では中里支部長が登壇し、先行き不透明な時代だからこそ、経営者同士が学び合い、支え合い、地域とともに歩む同友会の役割はますます重要になると強調。呉の地に根ざし、挑戦を続ける企業の力が地域の未来を切り拓くとの力強いメッセージが語られました。

来賓あいさつでは、呉市長 新原芳明様より、呉市の将来像とともにこれからの時代を生き抜くためにはAIをはじめとしたデジタル技

術の活用が不可欠であるとの提言がありました。業務の効率化や人材不足への対応、新たな価値創出に向け、企業が果敢に挑戦することの重要性、そしてその挑戦を行政として全力で後押ししていくという力強い言葉に、会場の多くの経営者が深くうなずいていました。

続いて、呉商工会議所会頭 若本祐昭様からも、同友会への大きな期待と、地域経済を共に盛り上げていこうという熱いエールが送られました。

乾杯は日本政策金融公庫呉支店長 橋本達也様の発声により行われ、会場は一気に和やかな歓談の輪に包まれました。世代や地区を超えた交流が活発に行われ、未来へのヒントや新たなつながりが生まれる場面が随所に見られました。

中盤では、サンバチーム「ボーザ・ジ・ヒロシマ」によるパフォーミングが披露されました。サンバはブラジルの伝統文化であり、元氣、活氣、そして躍動の象徴。その情熱的なリズムとエネルギーが、会場の空気を一変させ、新年にふさわしい前向きなエネルギーと笑顔で参加者全員に届けました。躍動する音楽と身体表現は、呉支部が目指す

「挑戦し続ける経営者の姿」とも重なり、大きな拍手が鳴りやみませんでした。

恒例の年男・年女の紹介が行われ、代表あいさつとして、㈱スタジオアイ 代表取締役会長 相川敏郎氏(音戸倉橋)が登壇。続いて新会員の紹介、今後の行事案内および「KUREキヤリアガイダンス」のPRが行われ、同友会活動のさらなる広がりと次代への期待が示されました。

最後は中下副支部長による「中締め」、そして閉会へ。新たな一年に向け、呉支部の結束と挑戦への決意を強く感じさせる新年互礼会となりました。



呉港ブラスバンド部の皆さんによる演奏



年男・年女の皆さん



ボーザ・ジ・ヒロシマの皆さんによる踊りと演奏

記
㈱サカイ 酒井康之
(企画委員長・呉中央)

1月の地区会記事は、代表して三つの地区会に新年互礼会の記事を投稿していただきました。

《呉中央地区会》

実り多い一年となるように

■出席者 21名

新年互礼会に参加し、新しい一年の始まりを改めて実感するとともに、多くの方々と同じ時間と空間を共有できたことに、大きな喜びと意義を感じました。会場には終始和やかな空気が流れ、久しぶりに顔を合わせる方々との挨拶や近況報告、新年ならではの前向きな言葉が交わされる様子から、この互礼会が人と人をつなぐ大切な場であることを改めて感じました。

オープニングでは、高校生によるブラスバンド演奏が披露されました。ステージに立つ生徒たちの凛とした姿と、息の合った力強い演奏は、会場全体を一気に引き込み、新年の幕開けにふさわしい清々しさと高揚感をもたらしてくれました。一音一音に込められた真剣さからは、日々の練習の積み重ねや仲間同士の信頼関係が感じられ、聴いている私自身も自然と背筋が伸びる思いがしました。若い世代が懸命に取り組む姿に触れ、未来への希望とともに

に、自分自身も初心を忘れず努力を続けていきたいという気持ちを新たにしました。

続いて行われたアトラクションのサンバは、先ほどの厳かな雰囲気とは対照的に、会場を一気に明るく華やかな空気へと変えてくれました。軽快なリズムと躍動感あふれるダンス、色鮮やかな衣装が目を引き、自然と手拍子が起こるなど、参加者全員が一体となって楽しむ様子が印象的でした。日常ではなかなか味わえない非日常感に、思わず笑顔になり、心から楽しめるひとときとなりました。

今回の新年互礼会は、厳粛さと楽しさ、そして世代を超えた交流が見事に調和した、非常に充実した内容だったと感じています。こうした場に参加することで、人とのつながりの大切さや、地域や組織の一員としての自覚を改めて認識することができました。

新年の節目に、このような有意義な時間を共有できたことに感謝するとともに、今年一年も周囲の方々を力を合わせながら、より良い活動につなげていきたいと強く思いました。今回の互礼会で得た前向きな気持ちを胸に、実り多い一年となるよう、一歩一歩着実に歩んでいきたいと思えます。

(記 株中谷建設工業 中谷 和紀)

《広北地区会》

良い空気感を感じながら大切にしながら

■出席者 10名

オープニングは呉港高等学校ブラスバンド部による生演奏。誰もが知っている勇気づけられる曲のメドレーが披露され、会場の空気が一気に和らぎました。生演奏ならではの迫力と温かさがあり、「やはり生の音楽はいい」と感じた方も多かったのではないのでしょうか。

また、年男・年女の紹介では、60代・70代とは思えないほど元気で前向きな経営者の姿が印象的でした。年齢を重ねてもなお挑戦し続ける姿勢に、会場全体が良い刺激を受けたように感じます。

二次会では、「こんな行事をすれば盛り上がるのでは」「家族が参加できる形があっても良いのでは」といった前向きなアイデアも自然と生まれました。新年互礼会は単なる節目ではなく、次の行動につながる場でもあります。

この良い空気感を大切にしながら、2026年も広北地区会をさらに盛り上げていきたいと思えます。

(記 株グッドウエル 吉井 徹)

《芸南地区会》

来年も皆の笑顔に再会したい

■出席者 10名

今年は、最初に呉港高校ブラスバンド部による多彩な楽曲を聴かせていただき、歓談の際には、ホーザ・ジ・ヒロシマによるサンバのパフォーマンスで盛り上がりました。

他愛のない世間話から真剣な話まで、様々な会話を交わし、時間はあっという間に過ぎてゆきました。

互礼会の後は地区会メンバーで二次会へ進み、今後の地区会を盛り上げるためにも、より一層の親睦を深めることが出来たのではないかと思います。

来年の新年互礼会でも皆の笑顔に出会えますように。

(記 三共産業株 世良 吉伸)

《青年部会》

大事なことは得た 学びを活かすこと

■開催日 1月21日（水）
■会場 呉森沢ホテル&Zoom
■出席者 59名

今回の青年部例会では、第3班が担当し、幽霊会員から始まった寺上氏自身の実体験を辿りながら、その経験から学んだ「同友会の活かし方」と「不離一体」の実践を考える例会を開催しました。

かつて幽霊会員だった寺上氏。その後は、他会員と接することで学びを深め、呉支部青年部では副部長を3年、昨年は9支部合同例会で実行委員長を担当するまでに至りました。

しかし、9支部合同例会を終えて感じたのは「本当にやり遂げたのか？」という疑問。この疑問を解消するヒントが、全青年部が知るべき理念「不離一体」にあったという報告でした。

「同友会活動は『参加すること自体』が目的ではなく、そこで得た学びを自社にどう活かすかが問われている」と改めて考えさせられました。

グループ討論では参加者それぞれ

れが寺上氏の歩んできた学びの過程と自身自身を照らし合わせ、「今、自分はどの位置にいるのか」「次のステップに進むために何が足りないのか」を率直に話し合いました。互いにアドバイスを交わす中で、今後の行動に繋がる気づきを得られる有意義な時間となりました。

今回の例会を通じて改めて感じたのは、同友会青年部は、経営者として、また一人の人間として成長するための場ということ。今回の学びをそれぞれの行動に落とし込み、今後の青年部活動、そして自社の発展へとつなげていきたいと思えます。



全員で記念写真

（記 合同呉運送棟 小松 慎司）

《共催行事》オールクレ商談会》

「オール呉」で開催 する商談イベント

■開催日 1月15日（水）
■会場 クレイトンベイホテル
■出展数 21社（うち会より2社）

呉広域商工会主催の「オールクレ商談会」が開催されました。この商談会は、伴走型小規模事業者支援推進事業の一環として実施され、今回で7回目を迎える呉地域最大級の商談イベントです。

この商談会は、商工会を中心に、呉市、金融機関、各種支援機関（同友会も毎年共催）、タウン誌などが連携する「オール呉」体制で実施されており、地域一体となって事業者の販路開拓を後押ししています。

当日は、県内10社、首都圏11社、その他地域2社のバイヤーと、呉市内の事業者21社（同友会から2社）が参加。会場では昨年を上回る139件の商談が行われ、終始活気に満ちた一日となりました。

この事業の特徴は、単なる商談の場にとどまらず、商品のブラッシュアップを重視した伴走型支援にあります。事前には、FCPシート作成や商談のポイントを学ぶセミナー、現役バイヤー等による個別相談

会を実施。商談会終了後も、バイヤーからの評価や商談結果をとりまとめ、継続的なフォローを行っています。

また、会場内には今年も「ライブコマースブース」を設置。事業者が自ら商品の魅力やストーリーを発信し、オンラインでの販売にも挑戦するなど、新たな販路開拓手法にも積極的に取り組みました。

「オールクレ商談会」は、プロのバイヤーから直接フィードバックを得ることで、自社商品の強みや課題を明確にし、次の一歩へと踏み出す実践の場です。地方にいながら全国市場に挑戦できる絶好の機会です。来年はぜひご参加ください。



商談会当日の様子

（記 事務局 木下）

〔特集〕幹部社員研修(主催 社員教育委員会)
経営者と幹部社員が共に学ぶ

経営の軸を確立する4か月の軌跡

■開催日 10月～1月(月1回)
 ■会場 ビューポートくれ & Zoom

■出席者 研修生17名、経営者15名

■呉支部・東広島支部合同で社員教育委員会が主催する「幹部社員研修2025」が佳境を迎えています。10月から始まった全5講のプログラムのうち、第4講までが終了しました。「経営者と一体となって主体的に経営指針を実践する幹部の育成」を掲げた本研修の、これまでの熱い学びの様子をダイジェストでお伝えします。

■第1講…経営指針の策定と実践(社長の「代弁者」としての覚悟)

(講師…(有)第一コンサルティング・オブ・ビジネス 丸山 博氏)

研修のキックオフとなる第1講では、幹部社員の根本的な役割を再定義しました。幹部は単なる現場責任者ではなく、社長の人生や会社の歴史を深く理解し、その想いを現場へ伝える「代弁者」であるべきことが強調されました。また、時代が変わっても守るべき「不易(理念)」と、変化に合わせて変えるべき「流行

(戦略)」を見極めるコンセプトチュアル・スキルの重要性を学びました。

■第2講…経営計画「1歩・1秒・1円」に込める責任

(報告者…(有)寿木工 住岡 和美氏)

第2講では、具体的な数値に基づく管理と現場規律に焦点が当てられました。「計画は社員の賃金支払い能力を保障するためにある」という住岡氏の言葉は、多くの受講生の身を引き締めました。「1時間あたり4500円の付加価値」という具体的な数値目標や、現場のわずかな無駄をコストと捉える「1歩・1秒・1円」の意識、そして規律を維持するための「見逃し三振(ルール違反の放置)の禁止」など、実践的な管理手法が共有されました。

■第3講…経営戦略「勇気を持って「やらないこと」を決める

(報告者…(株)デイ・リンク 川口 康之氏)

戦略の本質が「選択と集中」にあることを学んだ第3講。デイ・リンク社の赤字からの脱却事例を通じ、限られた経営資源をどこに投じるかの判断基準を深掘りしました。顧

客アンケートから「誰のため、どこを追求するか」という物差しを一本化し、「全部の売場を主役にしない」「人が張り付く売り方はやらない」といった「やらないこと」の決断が、組織の崩壊を防ぎ、黒字化への転機となることを学びました。

■第4講…経営理念「迷った時の絶対的なルールブック」

(報告者…(株)マルコシ 木原 淳氏)

第4講では、経営理念を「飾っておくもの」から「現場で活用するツール」へと昇華させました。理念は社長よりも上位にある絶対的な「社内ルールブック」であり、幹部にとつては理不尽な指示から身を守る「盾」となり、部下を導く「武器」となります。特にマルコシ社の「損得より善悪」という価値基準に基づき、30年前の施工ミスを自社負担で修理した誠実な対応例は、理念経営の真髄として受講生の心に深く刻まれました。

■討論と交流(経営者と幹部の「ベクトル合わせ」)

各講義後のグループ討論では、経営者と幹部社員が膝を突き合わせ、「自社の強み・弱み」や「理念はなぜ必要か」について本音で語り合いました。単に経営者の考えに同化するのではなく、対話を通じて「同じ言葉で語り、同じ基準で迷い、同じ優先順位で動く」という組織の一体

感を醸成する貴重な場となりました。

研修はいよいよ最終回、2月の第5講「幸せに生きる」へと向かいます。これまでの学びを統合し、会社の発展と社員の幸福をいかに両立させるか。幹部社員たちの挑戦は続きます。



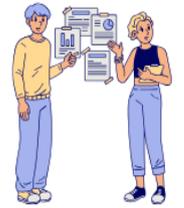
第1講の様子

(記 事務局木下)

行事案内

第2回企業広報勉強会

主催 呉支部広報委員会



第2回企業広報勉強会テーマは、「社内報」についてです。

広報委員会は呉支部の広報誌を担当していますが、「そもそも会員の中には、社内向けにどんなものを出しているか知りたい」と言う広報委員の意見をもとに、勉強会を準備中です。

プロに依頼した社内報も募集していますが、「同友会でこんな会に参加して、こういう学びを得た」と言う1枚の報告も私たちは立派な社内報だと捉えています。

会員の皆様が、普段社内に向けて、

「どう伝えているか？」を勉強させて頂きたいので、ぜひともご協力下さい。

社内報勉強会は、3月度広報委員会内で開催予定です。19時30分開始ですが、19時からの広報委員会にも、ぜひご参加下さい。

なお、お預かりした社内報は個人情報を含む場合もあるため、お持ち帰りはできません。必要な場合は、個人名や企業名、数字の部分へのマスキングなど柔軟にご対応いたします。会員の皆様の多くのご協力とご参加を心待ちにしております。

社内報 募集

中小企業家同友会呉支部 広報委員会

3月の広報委員会勉強会のテーマの1つは「社内報」
どんな内容？社員さんの反応は？
費用対効果は？デザインは？

業種関係なく様々な企業様の社内報を集めています。
提供していただける企業様は広報委員または事務局へ連絡
ください！ご都合悪ければ直接受け取りに伺います。

※社内報の具体的な内容は委員会外には出しません
返却希望の場合は返却いたします

お問い合わせは事務局または各地区広報委員まで

第2回企業広報勉強会

「我が社の社内報」～社内報勉強会～

日時：3月10日(火)19:30～20:30(広報委員会内)
場所：同友会呉事務局

(一社)広島県中小企業家同友会 呉支部広報委員会 主催

第3回企業広報勉強会

「自社を自分の言葉で表現しよう」

日時：3月27日(金)19:00～21:00

場所：KURE TOPOS

(呉市中通4丁目1-4-藤原ビル3階(や台ずし上))

参加：無料(定員あり)同友会会員以外の方も大歓迎です

3回目の企業広報勉強会は、「自社は何業か？」を初めましての方にも伝わりやすくするための、ワークショップ形式の勉強会を開催します。解説にジセダイプロジェクト(株)大上氏をお招きして、広報委員 瀬野さんの仕事を深掘りしながら、皆様にもグループワークで実際に考えて頂きます。ご参加お待ちしております！！会外の方のご参加は、呉支部インスタグラムDMにてお願い致します。



ジセダイプロジェクト(株)
大上 将広氏(呉中央)



デントリペアセノ
代表 瀬野 良平氏(広北)

呉支部・青年部インスタグラムアカウント

フォローお願いします



KURESEINENBU



@KURE_DOYUKAI

第3回企業広報勉強会テーマは、「自社は何業か？」です。

「AIを活用してみても、何かしっくりこない」「上手くは表現できていない気がする」。そんな広報委員の意見を受けて、3回目の勉強会を開催する事となりました。

この勉強会では、モデルとして、デントリペアセノ 瀬野さん(広北)の悩みを、ジセダイプロジェクト(株)大上さん(呉中央)の解説で深掘りしながら、参加者の皆様にもワークショップ形式で取り組んでもらう

形になる予定です。

本勉強会は、同友会呉支部の広報活動の一端として、一般参加可能な形にしております。

初めましての方にも、自社がどのような業種で、どのような特色を持つ会社なのかを考え直す良いきっかけになればと思います。ひいては、自社分析や採用活動にも繋がればと鋭意企画中です。

edyouに行事登録しておりますので、参加申し込みお待ちしております。定員がございますので、お早めの回答をお願いします。

行事案内

第3回企業広報勉強会

主催 呉支部広報委員会

